

介護、デザインなど業種の壁を越え 新たな介護の魅力を発掘する

株式会社studio-Lは、後、参加者同士で同スクール参加への思いを共有した。今回の事業について同社代表の山崎亮氏は、「単発のイベントを開催することは簡単ですが、それだけでは変化は起こせない。デザインスクールをきっかけに、各地で継続したプロジェクトが立ち上がってほしい」と狙いを話した。

介護の現場を体感し、プロジェクトのテーマを探すため、第2回は介護施設への1日インターンシップを実施。介護職以外の参加者からは「思っていたよりも職員や利用者を楽しそうだった」といった声もあがり、介護に対する理解を深める機会になったようだ。

第3回ではインターンシップで見つけた気づきを互いに共有し、自分が利用したい・働き護施設とは何かに議論した。全参加集めた理想の介護キーワードをもとに、地域住民とのつながる現場「社内のコケーション」とい、働きやすい職に学び、クリエイティブが発揮できる現場の仕事が憧れの未来「など、8つ」に分類し、プロジェクトのチーム分け。第4回からは具体的なプロジェクトを開始する。

専門職らが加わり利用者を尊重した 一日ごとの個別プログラムを作成

首都圏を中心に介護付きホームやデイサービスなどを展開する株式会社アズパートナーズは、8月1日、東京都府中市に「アズハイム府中中河原」を開設した。同社では、13棟目のデイ開設となり、初の大規模施設(定員60人)だ。

同社のデイの特徴は、①リハビリ専門職による充実した個別機能訓練、②一人ひとりに合わせたプログラムの作成、③地域の専門講師を招いて行うカルチャー教室——の3つ。同デイでは、その特徴を最大限に活かすため、最新のトレーニングマシンの導入やカラオケルームの設置、リハビリ専門職などによる個別プログラムの作成に注力し、利用者のADL改善や満足度向上を図っている。

利用者一人ひとりの体調や身体機能に合わせてリハビリやレクリエーションを組み合わせた一日ごとの個別プログラムの作成には、理学療法士などの専門職も加わる。プログラムのなかには、エアロビ体操やマシントレーニングなどのリハビリメニューのほか、裁縫や将棋、パティシエ教室、音楽教室などのレクも含まれている。専門講師として地域住民を招き、陶芸教室などを実施することもあるという。

同デイセンター長の今中保子氏は、「大規模施設なので、さまざまなメニューを組み合わせたプログラムを実施することができ、ご利用者の趣味の継続や新しいことに挑戦するきっかけにつながっています」と施設の強みを語る。



地域住民が講師となって行った陶芸教室の様子

介護ビジョン 2018年10月版